

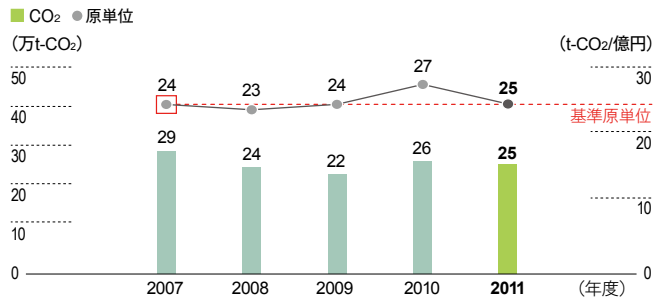
低炭素社会の実現

温室効果ガスの排出削減

当社は、「エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりで、グローバルに地球温暖化防止に貢献」することを目指しています。事業活動に伴い発生する温室効果ガスの99%は、エネルギー起源のCO₂であるため、化石燃料に由来するエネルギー使用の削減を中心とした温室効果ガスの排出削減活動を実施しています。太陽光発電設備の設置や高効率照明への交換等に加えて、エネルギー使用の無駄を発見し改善するためのエネルギー使用量の見える化を推進しています。

当社の温室効果ガス削減目標は、2007年度を基準としたCO₂排出原単位を、2008年度から2012年度の平均値で10%削減することを掲げています。2011年度は、原単位25（基準値 24t-CO₂/億円）であり目標の達成には厳しい状況ですが、エネルギー使用量の削減で不足する部分は、CO₂クレジットを活用し目標を達成する予定です。

川崎重工のCO₂排出量と原単位の推移

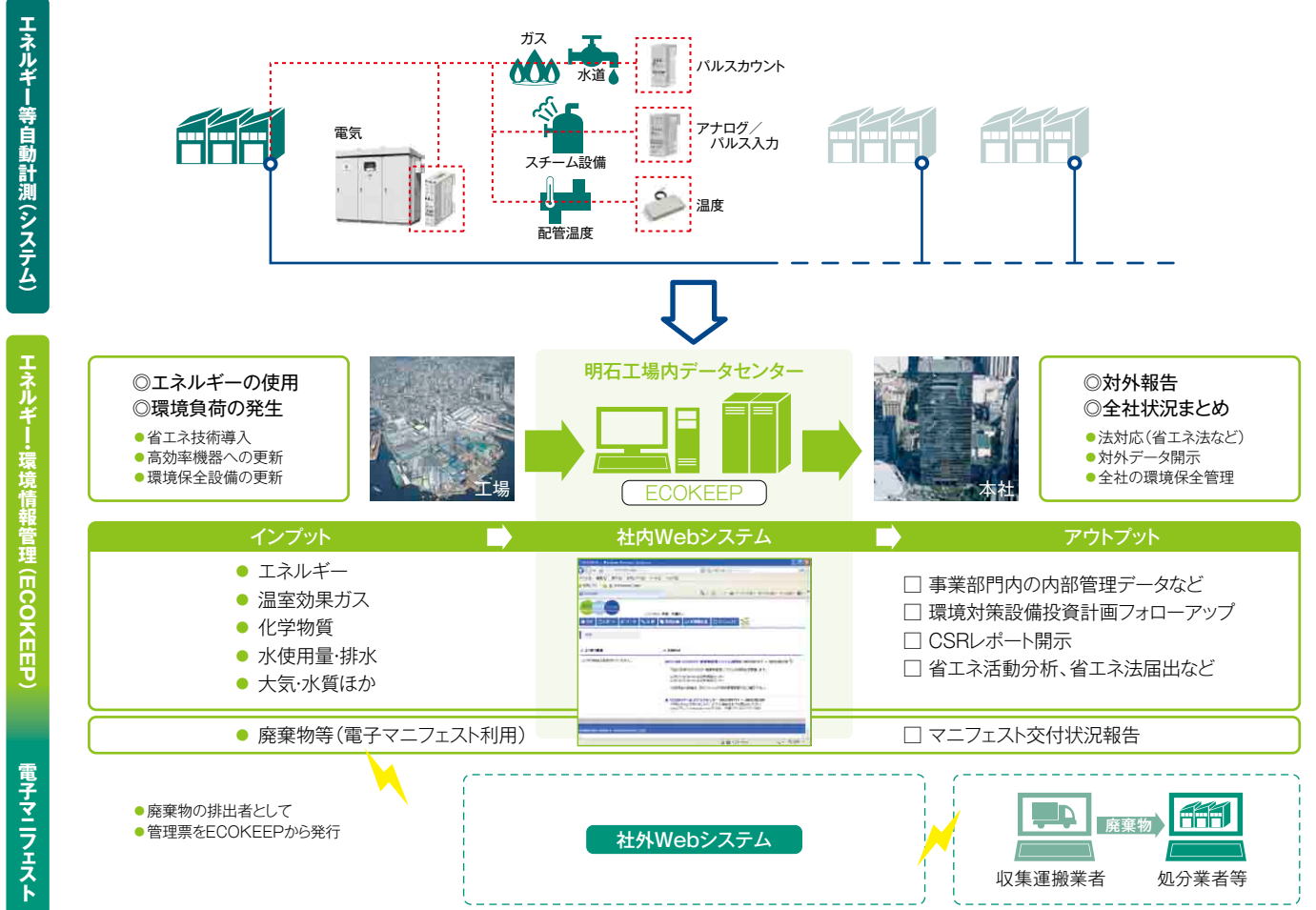


注1 CO₂排出原単位は、CO₂排出量を売上高で割った数値を利用しています。
 注2 CO₂排出量は、地球温暖化対策推進法に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による企業別公表値です。

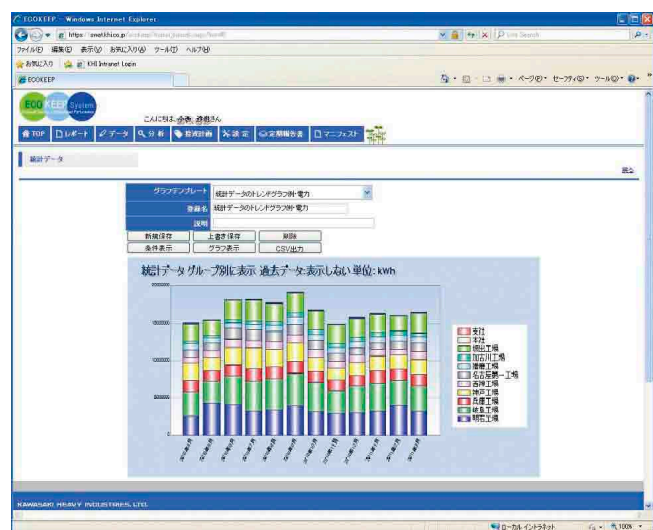
エネルギー使用量の低減対策

省エネ設備投資によるCO₂排出量削減は一定の成果をあげていますが、継続的なエネルギー使用量の低減を

システム構成イメージ



行うためにエネルギー自動計測機器を導入しています。加古川工場では、電力、ガス、圧縮空気等、計測対象の大部分を占める約350点のエネルギー使用量を計測し、リアルタイムで使用状況を表示した上で、省エネ活動を進めています。また、これらの工場の計測データは、全社システムに集計され、エネルギー計測データを分析して情報の共有化を図っています。



システム画面例

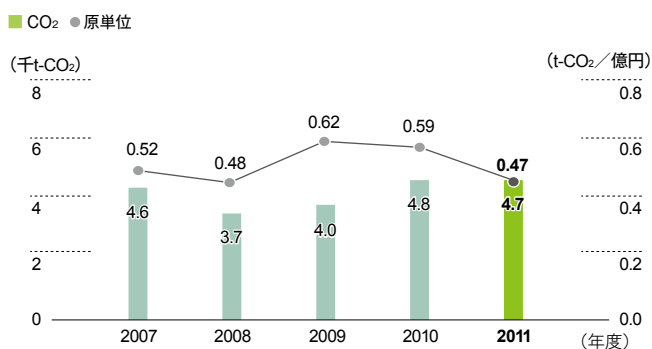
省エネ設備投資によるCO₂削減

2010年度から2011年度にかけて工場灯約1万4千灯と事務所灯約1万6千灯をより省エネ効果の高い機種に更新しました。具体的には工場灯を水銀灯から同じ明るさで消費電力が約半分になるメタルハライド灯に、事務所灯を従来型蛍光灯から20%省エネとなる高周波(Hf)型蛍光灯に取り替えました。これにより年間約2,600トンのCO₂削減を見込んでいます。

物流過程における環境配慮

当社は、物流過程におけるCO₂排出量削減に向けたデータ把握と省エネ活動の推進を実施しています。当社の貨物輸送は、輸送トンキロ(輸送量重量×距離)で評価すると、トラックによる輸送が約半数、残りは環境負荷の少ない鉄道や船舶による輸送となっています。2011年度実績は、CO₂排出量4,700t-CO₂、CO₂排出原単位0.468で昨年度より原単位が20%改善しました。今後は、トラックによる輸送の積載率向上や、トラックから鉄道などへのモーダルシフトを検討し、さらなるCO₂排出量削減を目指します。

物流過程のCO₂排出量



- *1 CO₂排出原単位は、CO₂排出量を売上高で割った数値を利用しています。
- *2 物流過程のCO₂排出量は、省エネ法に基づく特定荷主として算出した数値を示します。
- *3 川崎重工の物流過程のCO₂排出を表示していますが、合併前の川崎造船などの数値は含まれていません。
- *4 原単位指標としている売上高は、*3と同じ範囲の売上高を利用しています。